



12月は「家族愛」について考えてみました

12月18日(水)の特別の教科「道徳」の研究授業。今回のテーマは「家族愛、家庭生活の充実」。今回は、小学4年生・中学1年生・2年生・3年生が、それぞれの発達段階に応じた教材で取り組みました。ご家庭でも、ぜひ子どもさんと「家族」について話し合ってみてください。

小学4年生「お母さんのせいきゅうしょ」

日曜日、たかしはそれまでにしたお手伝いの「請求書」をお母さんに渡す。お母さんは、そこに書いてあった金額をたかしに渡すとともに、お母さんからの「請求書」を渡した。そこに書かれていた金額は「0円」。それを見たたかしの目に涙があふれるというお話。

授業を受けて、「手伝いをいっぱいする」「自分でできることは自分でする」「言われる前にお手伝いをする」という考えを持ってました。

中学1年生「靴」

学校で、靴箱に入れていた外靴がなくなる。上靴で帰ってきた様子を見て、父母は心配するが、本人の気持ちを考えて、詳しく聞くのをやめる。翌日、何事もなかったかのように、靴が靴箱においてあった。それを機に、クラス全員でそのことについて考えるというお話。

授業後の感想では、「家族は自分の心の支え」「いつでも味方」「欠かせない存在」という記述があり、家族の大切さに気付くことができました。



中学2年生「ごめんね、おばあちゃん」

両親共働きのため、僕や妹を面倒見てくれていた祖母。しかし、次第に年老いて、失敗することが目立つようになる。それに対して、僕や妹はきつい言葉を投げかけてしまう。そんな中、祖母が骨折をして入院した。祖母を見舞いに行き、病院を出るとき、「ごめんね」とつぶやくというお話。

祖父母と生活していない人もいましたが、授業後の感想では、「家族が普段していることには一つ一つ思いがあることが分かった。」「これから感謝して大切にしないといけないと改めて思った」などの記述がありました。



中学3年生「一冊のノート」

年老いた祖母。記憶が乏しくなり、子どもたちの大事なものを捨ててしまったこともあった。そんな祖母を非難する子どもたち。外で会っても思わず他人のふりをしてしまう。ある日、祖母の日記を見つける。そこには、おぼつかない文字で日々の不安が記されていたというお話。

授業後には、「家族に対する認識が変わった」「家族に何かしてもらうことは当たり前じゃない」「偉大な存在」「限りあるこの時間を大切にしたい」という感想を持ちました。



中学部全校道徳「感動の本質とは何か」(12月11日)

中学部全校生徒で、『感動』とはどういうものをいうのかについて考えました。はじめに、個人で感動した体験を思い起こし、1～3年生が混ざった4人グループで、その体験を発表し合いました。その後、それぞれの体験の共通点を話し合い、「感動」の本質について、グループの納得解を出し、全体で発表しました。

グループの発表では、「魂」「刺激」「思い出せる＝心に残る」「新しい感情」「はかなさ」「正の因子」「日常の中の非日常」などのワードが出てきました。また、授業後、「違う学年の人と交流することで視野が広がった」という感想が多くありました。



今回は1月22日(水)。小学部3年・いきいき学級、中学部1年・3年で、「(思いやり・)感謝」をテーマに授業を行います。